

【31】 一夜明ければ水族館

この言葉は、平成 10 年 9 月 24、25 日（1998）に、秋雨前線の豪雨で高知市に水害があり、急遽出版された写真集にのっていた、浸水した県立美術館の写真に付された見出しです。

主たる被災地の高知市の東側の地域は、国分川が浦戸湾に注いで出来た、又、人為的に干拓されて生じた低平地であり、ゼロメートル地帯となっています。しかし、市中心部に近く、便利も良いので近年市街化が進み、人口も増えていたところを豪雨が襲ったのです。美術館の一階は水没し、折から開かれていた県民書道展の作品は水に濡れてしまいました。美術館とか博物館あるいは図書館など貴重な文物、文化財を保管する施設は、災害国の日本では特に安全な場所に立地すべきでしょう。

私が近畿地方建設局に勤務していた昭和 57 年（1982）に、大阪市中之島に陶磁器のコレクションを収めた市立の「東洋陶磁博物館」が完成し、お披露目に招かれました。早速出かけましたが博物館の建物は中之島を囲む高潮堤のすぐ脇にありました。河川屋の目で見るとギョツとする眺めです。案内して下さった係員に“水害の時は危ないですね”と言いましたら、“イヤ所蔵品は焼物ですから少々水に浸かっても大丈夫でしょう”と笑いながら切り返されてしまいました。